



共立女子大学・共立女子短期大学は
千代田区認知症サポート企業・大学
として認証されている。
大学では第1号の認証！

認知症フレンドリーなネットワーク 構築と地域モデルの検討

共立女子大学看護学部：教員 & 共立ナースのたまごふれふれ
教授：河原智江
2年生：田口未来子 1年生：桂 百葵・葛西美咲・大曽根桃華・風間みすず

1. 目的

地域における保健医療福祉の喫緊の課題である認知症対策について、
大学と千代田区内の企業・保健福祉機関、住民が連携したネットワークを構築するとともに、**千代田区特有の認知症フレンドリーな地域モデルを検討**することを目的とした。

注)「認知症フレンドリー」な社会：
認知症の人が高い意欲を持ち、自身を感じ、意味があると思える活動に貢献、参加できるとわかっている、そうした環境である。
(英国アルツハイマー病協会報告書, 2013徳田訳)

【めざすこと】千代田区における認知症予防・認知症高齢者家族のための
新たなネットワークづくりと持続可能な社会資源の開発／環境整備

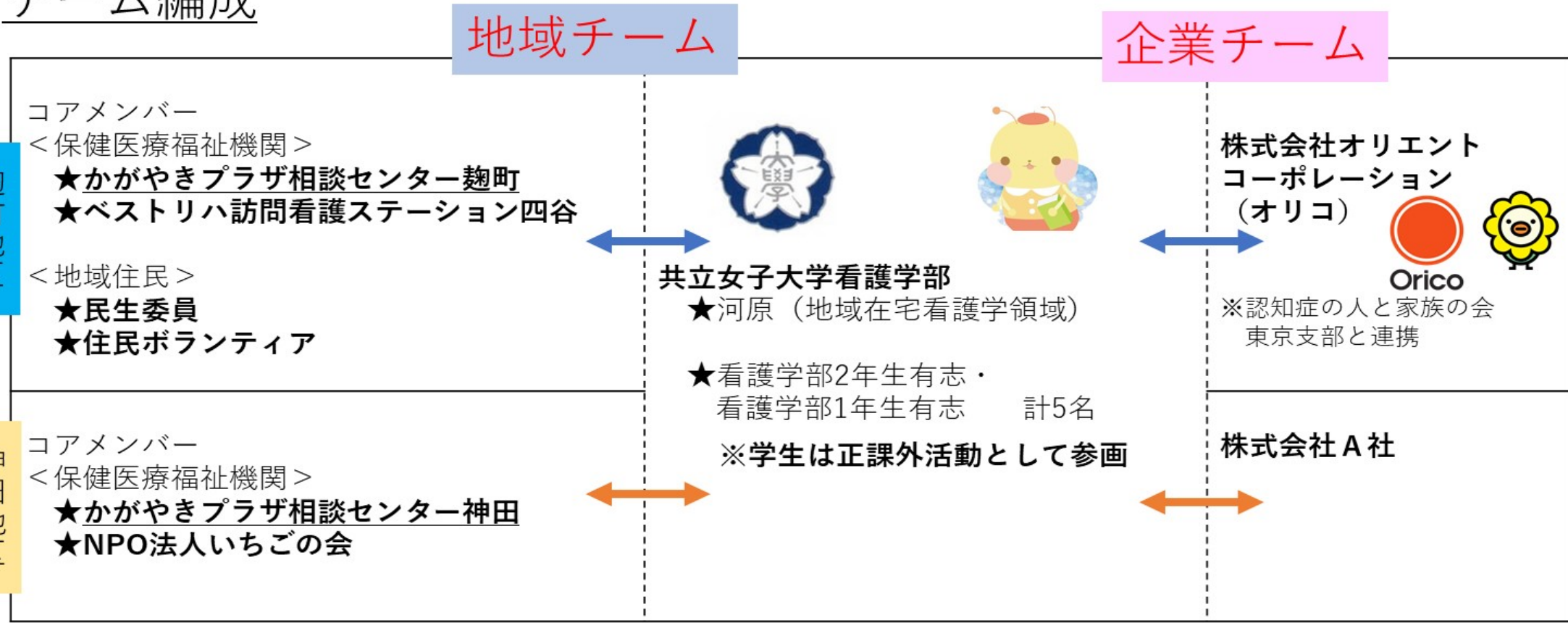
取り組みの前提：
お互いに無理なく、協働し、実施、継続できる！

大切にしたい要素

- ◎目的、方針の明確化
- ◎気になること、課題（ニーズ）の明確化
- ◎企画の段階から関係者との対話を重視
- ◎大事にしたいこと、課題をその都度、話し合い、方策を検討して決定（解決）
- ◎合意を得ながらの取り組み
- ◎楽しみながらの取り組み

2-1. 検討・実施の経緯

チーム編成



※適時、千代田区在宅支援課と連携

2-2. 検討・実施の経緯

協働事業の内容

- 地域チーム**
麹町地区・・・「**楽楽ひろば**」の設置と協働開催
(高齢者、多世代で**気楽**に、**楽しく**集える居場所)
神田地区・・・「**千桜講座**」の協働開催
既存の枠組みを活用
- 企業チーム**
認知症サポーター養成講座 & 関連研修の企画調整、実施
企業ニーズを把握し企画・実施

3. 実施状況

ここでは、学生が主体となって取り組んだ「地域チーム」
(麹町地区/神田地区)の活動の一部を報告する。

基本コンセプト 看護学部学生が企画・実施する3つの意義

- ◎**地域密着性**：地区の特色・強みを活用
- ◎**看護の専門性**：高齢者の特徴理解／予防的な取り組み
- ◎**娯楽性**：残存機能の活用

麹町地区

<プログラムの概要>

- 歌う・踊る**
坂本九さんの曲『上を向いて歩こう』を歌い、踊る
⇒散歩の準備
- 語る**
千代田区の地図を見ながらバーチャル散歩
(ゴール：聖イグナチオ教会)
⇒身近な土地・思い出を語り合う
- 作る**
聖イグナチオ教会のステンドグラスをイメージ
⇒ステンドグラスの工作

<実施状況>

- 参加者
 - ジロール麹町入居者
 - 千代田区在住の高齢者
(楽楽ひろば継続参加者含む)
計12名
- 人員体制
 - かがやきプラザ相談センター麹町 職員
 - ベストリハ訪問看護ステーション 職員
 - ジロール麹町 職員
 - 千代田区社会福祉協議会 職員
 - 地域の民生委員、ボランティア
 - 担当教員、看護学部1年生有志、田口

<実施状況(準備段階)>



<実施状況(準備段階)>



<実施状況(楽楽ひろば当日)>



<評価>

良かった点	課題
・プログラム構成 →「歌う、踊る、語る、作る」、 という様々な脳機能を活性化 ・プログラムの一貫性 →理解しやすさ →意欲的な取り組み →ストーリーを持った作品が 手元にあり、記憶に定着 ・参加者からの「楽しかった」と いう発言／乗り気でなかった 参加者の終了時までの参加 など	・様々な健康状態の方、 地域になじみのない方でも 楽しく参加できる工夫 (声かけ・席次・プログラム 内容) ・一人でも気軽に参加でき る・安心できる場所である ことを伝えるチラシづくり

神田地区

<プログラムの概要>

- 脳トレと交流**
- ★脳トレに気楽に、楽しく参加してもらうために、
「学校」を想定して、脳トレの内容ごとに時間割
を作成
- ★参加者には、クラスのグループ(班)をイメージして
着席
- ★「個人での取り組み」と「グループでの取り組み」を
組み合わせた脳トレプログラム

<実施状況>

- 参加者
こもれび千桜入居者 計12名
- 人員体制
 - NPO法人いちごの会 職員
 - かがやきプラザ相談センター神田 職員
 - 担当教員、看護学部2年生・1年生有志

<実施状況(準備段階)>



<実施状況(準備段階)>



<実施状況(千桜講座当日)>



<実施状況(千桜講座当日)>

